

# 課題：IPM（総合的害虫管理のうち土着天敵温存植物の利用） による安全安心な農産物生産技術の普及

## ねらい

徳島県の露地ナスはミナミキイロアザミウマの防除に多大な労力を要しています。また、全国ではアザミウマ類等の微小害虫の薬剤抵抗性が発達し防除に苦慮しています。これらのことより、全国で天敵を活用した生物的防除が取り組まれています。特に露地野菜では、土着天敵温存植物（インセクタリアープラント）による効率的誘因・温存法の研究が進んできています。このような研究成果を活用し、天敵温存植物の植栽を核とした土着天敵活用技術を生産現場に普及していきます。これにより、農薬の過度の連用を防ぐことによる薬剤抵抗性の発達抑制、防除作業の労力軽減を図り、持続的で安定的な生物多様性農業生産を実現します。

## 活動地域・対象

県内全域（徳島市、板野郡、阿波市、美馬市、三好市、海陽町）の夏秋ナス生産者

## 普及活動の目標

- 土着天敵を活用した防除体系を県内全域に普及します。
  - ・天敵温存植物の効率的な利用技術の普及
  - ・土着天敵を有効に活用するための農薬使用方法の普及
- 防除労力軽減と薬剤抵抗性発達抑制を実現します。
  - ・土着天敵活用による防除回数の削減、薬剤抵抗性発達の抑止

## 目標に向けた活動概要

- 1) 実証展示圃の設置、展示圃における土着天敵とアザミウマ類の発生推移の調査及び効果分析
- 2) 成果の周知：現地検討会・実績説明会の開催
- 3) 技術情報収集：先進地視察
- 4) 成績検討会の開催

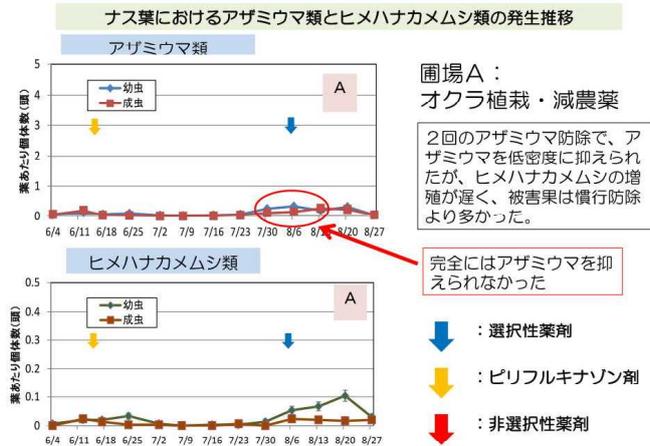


展示圃の様子：左は天敵温存植物ホーリーバジルの植栽 右はオクラ「まるみちゃん」植栽  
アザミウマを食べる土着天敵ヒメハナカメムシ

## 普及活動の成果

### 1) 実証圃における調査結果

- ・オクラには安定的に土着天敵ヒメハナカメムシが発生しました。
- ・ホーリーバジルには十分にヒメハナカメムシが発生ませんでした。
- ・ナス圃場でのヒメハナカメムシ定着には天敵に影響の少ない薬剤の選択が重要であることがわかりました。
- ・展示圃場では慣行防除（15回）の1/3以下の薬剤散布でミナミキイロアザミウマの増殖を抑制できました。



2) 成果の周知：現地検討、実績説明会を計8回実施し、技術の周知と生産者の意識が醸成されました。

3) 技術情報収集：展示圃成果に対し、専門家（宮崎大学）に評価してもらい、今後の問題点が明らかになりました。

4) 成績検討会：成果の周知と今後の取り組みの方向性が決定しました。

5) 技術資料の作成（周知用パンフレットの印刷）：  
技術資料の作成・配布により生産者に対する技術周知ができました。

土着天敵を活用した露地ナスの防除技術資料



減農薬およびアザミウマ等の農業抵抗性対策として土着天敵利用に注目しました。

平成25年度技術導入区域推進事業  
徳島県立農林水産総合技術支援センター

用語  
説明

## 今後の発展方向

更に使いやすく効率的な天敵温存植物の検索。天敵温存植物と農薬の使用方法の周知

## 関係者からの声

展示圃実施産地のJA、生産者からは、取り組みを続けてほしいとの意見をいただいています。展示圃実施以外の産地では、自分の産地でも指導を強めてほしいとの意見を頂いています。

## 農林水産総合技術支援センター高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922